

2021年度事業計画書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

I 事業方針

21世紀になり早20年が経過しました。その間、視覚障害者を取り巻く環境は劇的な変化を遂げています。従来の紙に打ち出した点字やカセットテープによる読書から急速にデジタル化が進み、点字ディスプレイやデイジー専用再生機、パソコンやスマートフォンなどの新たな機器を用いた読書の方法が広がりつつあります。これにより視覚障害者の読書の幅は大きく広がったと言えますが、同時にこれまでにない問題にも直面しています。

1点目は、最新のテクノロジーやそれに基づく機器類を使いこなせる人とそうでない人との間に大きな情報格差が生まれる点です。とりわけ高齢の方にとっては新たな機器類の使い方を学ぶ機会が少ない上、習熟にはそれなりの時間やコストがかかるため、どうしてもハードルは高くなります。しかも機器類を使えることが標準と見なされると、それらが使えない人にはこれまで以上に情報の入手が困難になります。

2点目は、仮に最新のテクノロジーを完全に使いこなせたとしても、それでもアクセスできない情報が社会にはまだ無数に存在するという事実です。おりしも国内ではいわゆる読書バリアフリー法が制定され、アクセシビリティの必要性は徐々に理解されるようになってきました。この流れを押しとどめることなく、誰もが等しく情報にアクセスできる社会の実現に向け、視覚障害者情報提供施設はその責任を果たしていくことが期待されています。

ロゴス点字図書館（以下ロゴスと略記）は、目まぐるしく変わる社会情勢、最新のテクノロジーや法改正に対して鋭いアンテナを張りつつ、前身のカトリック点字図書館の時代より受け継いだ奉仕の精神に基づき、「誰一人として取り残されるようなことが決してあってはならない」と考えています。またロゴスは情報提供施設であると同時に、長年の歴史に支えられた「図書館」であることを強みとし、2021年度も引き続き利用者サービスの拡充に努めて参ります。

II 重点施策

1 自動点訳ソフトを活用した点字図書製作体制の強化

技術の進歩は利用者の読書環境のみならず、図書製作においても大きな変化をもたらしました。古くは点訳ボランティアが点字を1点ずつ手打ちで作成していましたが、パソコン点訳の普及により製作にかかる労力や時間が大幅に削減されました。その点訳ソフトにおいても度重なるバージョンアップにより現在では様々な機能が追加され、ロゴスにおいてもその機能を十分に使いこなして図書製作ができるようマニュアルの整備や研修を進めています。

最近では紙に印刷された図書のみならず、ホームページ上にある情報や最初から電子デー

タ(以後、データ)で提供される情報など、点訳する対象となる情報にも変化が生じてきました。もし点訳する情報がデータで存在していれば、自動点訳ソフトを用いて直接点字データに変換することができるため、作業の効率化につながる可能性が出てきました。

自動点訳ソフトは、特に日本語においては不正確な変換が多く、蔵書製作に必ずしも有効でないと考えられてきました。しかし、自動点訳精度の向上を鑑み、図書製作に有効な自動点訳ソフトの活用方法と製作手順を整備し、今後さらなるデジタル化が進展するであろう将来に備え、点字図書製作の基盤強化を図ります。

2 再生機の貸出・利用案内によるデージー図書利用促進

視覚障害利用者の利用する図書には、大きく分けて点字図書と録音図書があり、近年では録音図書のニーズが大きくなっています。その録音図書には昔から利用されているカセットテープの他、デジタル化した音声データをデージーという規格で編集したものの2種類があります。デージーは大容量の図書データでもCD1枚に収められる携帯性、データゆえの複製のしやすさなど管理上のメリットがあるのみならず、利用者にとっても音質や検索のしやすさで非常に利便性が高く、すでに多くの利用者がカセットテープからの移行を進めています。デージー図書を利用するには専用の再生機またはパソコン・スマートフォンが必要で、全ての人が使えようになっていないのが現状です。

ロゴスでは利用者の様々なニーズに応えることを重視し、これまでデージーと並行してカセットテープの図書も製作・貸出してきました。最近ではカセットテープの利用者数が減少し、デージー図書の利用が定着してきたとはいえ、未だデージーの利用に至っていない利用者が少なからず存在します。この状況を踏まえ、2021年度は利用者へデージー図書の魅力や利便性を積極的にアピールすることで、デージー図書の利用促進を図ります。

具体的には、デージー図書を利用していない利用者に対して、ロゴスで複数台準備した再生専用機を無償で貸し出し、利用方法や活用のヒントを提案します。またパソコンやスマートフォンなど最新のIT機器を用いた読書方法についても、柔軟に案内します。

3 将来を見据えた業務改革の推進

点字図書館の業務内容、社会で期待される役割は時代とともに複雑化、多様化しています。しかし、雇用できる職員数には限りがあり、旧来と同じやり方を踏襲するだけでは全ての業務に対応しきれないという課題を抱えています。それに加え、設備の老朽化もさることながら、昨年より続く新型コロナウイルスの影響も相まって、時間や場所にとらわれない新しい働き方についても模索されるようになり、あらゆる意味で将来を見据えた「変革」が求められています。

ロゴスではこの状況をむしろチャンスととらえ、2021年度は業務の内容、進め方、役割を根本から見直し、現在の職員の能力や適性が最大限発揮され、かつ多様化する利用者サービスに柔軟に対応できるよう業務改革を推進します。具体的には館長及び職員で構成するプロジェクトを立ち上げ、既存業務の課題を洗い出した上で、短期的な部分改善に留まらず、外部との連携、新たなシステムやサービスの導入、非常勤職員の活用など組織的、中長期的な視点で改善策を検討します。小規模な改善については2021年度中に実行し、大規模な改善が必要な場合は、中長期計画策定を射程に入れながら、2022年度

以降の実現を目指します。

なお、かねてより予定していた点字プリンタ2台の入れ替えについては、支出時期の分散を図るため、2021年度と2022年度にそれぞれ1台ずつ購入します。2021年度の点字プリンタ購入にあたっては、その支出の一部について助成金を活用します。また改修を進めていたホームページについては、2021年度より本格的な運用を開始します。

Ⅲ 事業計画

1 図書館サービス

図書館サービスの根幹である図書の貸出については、「考える図書館」というロゴスの理念に基づく蔵書を強みとしながら、他館との相互貸借も積極的に行い、幅広い図書の利用を促します。またテープ図書利用者には、デイジー図書再生機の貸出を通して新しい読書方法の提案を行います。

図書の検索や紹介を行うレファレンスサービスのほか、プライベート点訳・音訳サービスとして、図書製作のリクエストに応えるのみならず、ホームページや小冊子など図書以外の情報についても幅広く対応し、利用者の情報支援を行います。

その他、希望があれば対面朗読や読書機器類の実演を行います。

2 図書製作

図書製作については、利用者のリクエストの中からロゴスの理念に合致する良書を選ぶのを基本としながら、最新の図書や古典的名作でまだ製作されていないものについても可能な範囲で対応します。

新規タイトルの製作数については、点字図書25タイトル、録音図書25タイトルを目標とします。なお録音図書については、新規タイトルとは別に、「フィラデルフィア会・声の文庫」から移管されたテープ図書160タイトルをデイジー化します。

3 ボランティア養成

点字図書製作では、点訳ソフトの拡張機能である「BESX」の利用促進を図るため、ボランティア間でのサポート体制を強化します。また過去の点訳ソフトを利用しているボランティアの方に対しては、最新の点訳ソフトを貸与し、製作環境の標準化を進めることで製作力の底上げを行います。それらに加え、点訳勉強会、校正勉強会をそれぞれ隔月で開催し、スキルとモチベーションの向上を図ります。

録音図書製作では引き続き、音訳勉強会と音訳校正勉強会をそれぞれ月1回（8月は除く）の頻度で開催します。なお音訳勉強会の偶数月は、外部講師にご担当いただきます。

4 地域貢献

ロゴスでは地域貢献として、直接来館できる方を対象に点字教室と相談業務を行っています。

中途失明者向け点字教室では、自身も中途失明当事者である方を講師に、受講生のレベルやニーズに合わせて月2回、1コマ60分の単位で個別に開講します。

相談業務では、就労や生活での困りごと、パソコンやスマートフォンなど最新IT機器類の操作方法、そのほか障害によって生じる人生の悩みなど、ご本人またはそのご家族の希望に応じて随時対応します。なお、直接来館の難しい方には電話でも受け付けています。

その他、江東区主催の「江東区民まつり」に参加し地域住民との交流を予定しています。

5 啓発活動

ロゴスの文化教室（講演会）とチャリティ映画会を実施します。ロゴスの文化教室は6月5日（土）、日本カトリック会館内マレラホールを会場に、批評家・随筆家の若松英輔氏をお招きします。チャリティ映画会については10月6日（水）、なかのZERO大ホールを会場に開催を予定しています。上映作品については年度初めに有識者に助言をいただいで決定します。

6 定期刊行物・出版

支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月（偶数月）、また有料のものについては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」の点字版、当館オリジナル点字雑誌「あけのほし」の点字・録音版をそれぞれ毎月発行します。その他、外部からの委託があったものについては可能な範囲で対応します。

7 外部との連携

2021年度は衆議院選挙が確実に行われることから、全国の各施設が加盟しているプロジェクトの一員として、点字版「選挙のおしらせ」の製作に協力する予定です。

その他、全国視覚障害者情報提供施設協会のプロジェクト、障害のある方への健康医療情報提供のあり方に関する研究にも引き続き参加します。

8 職員の健康管理

ここ数年の「働き方改革」の推進により、職員のワーク・ライフ・バランスに対する意識が変わってきました。ロゴスでは法令に基づき職員への健康診断を年1回実施し、個々の体調に合わせた柔軟な働き方ができるよう努めていますが、小規模組織のため産業医が設置できておらず、十分なフォロー体制が必ずしも整っているとは言えない状況です。この課題に対して、健康診断を任意の時期や病院で受けられるよう柔軟に対処するほか、地域産業保健センターを活用し、職員の健康管理にいつそう配慮する体制を整えます。

9 法人業務・会議体

2021年度は役員と評議員のいずれもが改選を迎えます。それにあたり、理事会4回、評議員会1回を予定するほか、評議員選任・解任委員会を開催します。